講演会型＋体験活動参加型＋子育てサロン型（乳幼児学級）

学 校 名 等	たんぽぽ学級（美濃市乳幼児家庭教育学級）
実 施 日 時	平成２６年 11 月 17 日（月）　１０：００～１１：３０
会　　場	美濃市勤労青少年ホーム、曽代公園
参 加 人 数	学級生 10 組
学習課題（分野）	木育教室「ままごとあそび」
運営者の願い	「ままごとあそび：美濃の秋の自然を楽しむ」を通して、親子で自然を観る目を養う。子どもが自然物を使った遊び方や食事の作法を身に付け、工夫して遊ぶことができるようにし、家庭でも木育を実践してほしい。

学　習　の　内　容

＜あいさつ＞　行政担当者

・木育について説明 「木とふれあい　木に学び　木と生きる」人と木や森とのかかわりを主体的に考えられる豊かな心を育てる。講師紹介。

＜講話とワーク＞

講師：福島　計一 氏（共育工房IPPO・ぎふ木育推進員）

（１）何にみえるかな？（室内にて）

・絵本を見て、何が隠されているかを見つけて交流する。
・葉っぱや石などの自然物を、親子でじっと見て、何に見えるかを考えて交流する。

（２）外遊びの約束の確認・注意事項

・具体的な写真を見ながら、危険な生き物や対処法などを学ぶ。

（３）自然の中での「ままごとあそび」（曽代公園にて）

・移動しながら、「ままごとあそび」に使える自然の紹介や作り方のヒントを知る。
・ままごと皿を配付。遊びのポイントを理解する。

（４）「ままごとあそび」発表・交流会

・みんなで「いただきます」をし、メニューを鑑賞する。
・鑑賞の発表や交流の後、「ごちそうさま」をする。
・「自然にありがとう」の気持ちで、片付けをする。

（５）振り返り・まとめ

・体験の振り返り・分かち合い、まとめをする。
・じっくり目で見て歩き、美濃の自然を感じることができた。
・大人が意識をもてば、子どもも意識して自然を大切に感じる人になっていく。

＜おわりのことば＞　行政担当者

・家庭でも、「ままごと皿」を使って、是非、外に出て、自然の中で「ままごとあそび」を行ってほしい。
・美濃市で行われている事業の紹介と参加の呼びかけ。

ままごと皿

＜参加者の感想＞（一部抜粋）

・絵本の中に隠れているものをたくさん見つけることができ、私も子どももとても楽しかった。
・親子で会話しながら、ままごと遊びができて楽しかった。日頃、家で遊ぶことが多かったので、子どもが、自然の中でのびのびと活動して、にこにことお喋りする姿が嬉しかった。
・葉っぱや石などをよく見つめると、いろいろな食べ物に見えてきて、自然の中で自由に遊び、想像することの楽しさや大切さを学んだ。
・子どもが自分で遊びを見つけて、自由に感じることができる体験を多くすることが大切だと感じた。これから、自然の中での遊びを多くしていきたい。
・「木のままごと皿」をプレゼントしてもらい、子どもが大喜びだった。家でも、四季の自然の中で、「ままごとあそび」をして、遊びを工夫できる子になってほしいと思う。

＜地域の自然を生かした木育の推進＞

地域の特性や自然を大切にした「木育」を乳幼児家庭教育学級で毎年 1 回、継続実施している。

美濃の美しい秋の自然の中で、子どもが自ら遊び方を見出し、自由に遊ぶ発想力を養う活動がたっぷり位置付けられていた。

また、「ままごとあそび」を行うことによって、食事の作法も自然に身に付けることができ、充実した活動となった。

＜学級生の希望を大切にした取組＞

今年度は、「自然の中で、親子が一緒に体験できる学習会にしたい」という学級生の希望を大切にして内容や方法を検討。

親子で「自然を観る目」を学んでから、秋の自然の中で「ままごとあそび」を体験する木育教室を実施した。

＜家庭での実践につなげる工夫＞

「ままごと」遊びで使用した「木のままごと皿」を全員にプレゼントし、家庭でも木育実践ができるように、配慮した。